

2018年9月16日

## 福音書からのメッセージ

イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」

(マルコによる福音書8章33節)

イエス様の十字架の予告を止めに入ったペトロに対し、イエス様は言われます。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」と。そこはあなたのいる場所ではない。前に立つな。わたしの後ろに回れ、そういうことです。ペトロはイエス様の受難の話を聞き、それはダメだと思いました。そんなことされても、みんなうれしくない、いやペトロ自身がハッピーになれない。神さまのご計画に思いを寄せるのではなく、自分の思いを優先させてしまった。それが、イエス様の前に立ってイエス様を自分の思う方向に導こうとするペトロの姿だったのです。

わたしたちはどこに立っていますか。イエス様の後ろに立って、イエス様にすべてを委ねて歩もうとしていますか。それとも、「イエス様、こうしてください」、「イエス様、あれが必要です」、「イエス様、それはいけません」。ああしてくれ、こうしてほしい、そればかりで、神さまのみ心は何なのか、心にとめようともしない、そんなことはないでしょうか。

イエス様はご自分に従うにはどういうことか、わたしたちに示されます。それは「自分を捨て、自分の十字架を背負う」ということです。自分を捨てると言っても、自分自身を拒絶し、憎むことではありません。自分勝手な思いや、自分を正当化する心を手放す、これが自分を捨てること。そして自分の十字架を背負うのです。十字架を背負う、想像してください。痛みはないでしょうか。苦痛は感じないでしょうか。



でもそれが、イエス様の歩まれた道を歩くということです。

では自分の十字架を背負うとはどういうことでしょうか。人を愛することと十字架を背負うことは同じようなことかもしれません。本当に人を愛するならば、そのためには自己犠牲が必要なのだと。たとえばおかあさんは、子どもが生まれたとき、いろいろなものを犠牲にします。時間、お金、趣味。「お母さんなんだから我慢しなさい」って人に言われたら嫌なものです。子どもを愛するがゆえに、自分が大切に思っていたものがどうでもよくなることのあるのではないのでしょうか。

神さまの愛は、それ以上のものです。何の見返りもない、得もない。でもただ一方的に愛してくださる。神さまはわたしたちに、そう接して下さっています。だからわたしたちも、今となりにいる人を愛するのです。

愛することで、多くのものを失うかもしれない。大切にしていたものを手放すこともあるでしょう。でも自分の思いを一番に考えていたら、他人に目は向きません。

周りの人に手を差し伸べることで、自分が痛い思いをするかもしれない。傷ついた人の傍らに立つことで、自分も苦しみの中に落とされるかもしれない。でもそれが、自分の十字架を背負うことなのです。それが神さまのみ心なのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>